

医療従事者らにエール

岱志高

思い込め絵と書の大作

荒尾市荒尾の岱志高校（三津冢民也校長）の美術部と書道部の生徒が新型コロナウイルスと闘う医療従事者や地域の人たちへのエールを込めて、絵画と書の世界を完成させた。同市緑ヶ丘のあらおシティモールに展示される。



医療従事者などへエールを送る作品

美術部では例年、体育祭の団画を作成している。生徒たちは全国的に新型コロナウイルスの感染が拡大し、隣接する市民病院でもクラスターが発生する中、コロナと闘う医療従事者や学校を支えてくれている地域住民などへの感謝の気持ちを、示そうと、体育祭に向けて4月中旬から制作を開始。同校が取り組む高校生の方で地域を元気にする「Niji Project」の一環でもあり、美術部は白血病を患いながらも競技に復帰した水泳の池江璃花子選手を描いた。書道部は医療従事者を応援する意味を込めた青色の輪の上に「Never give up」のメッセージを書き上げた。

作品の下地は布製で、美術部の絵が横4尺、縦3尺、書道部の書が横4尺、縦2・5尺。どちらも生徒がシートを縫い合わせて作られた。5月19日に行われた体育祭ではグラウンドに飾られ、生徒たちを応援した。

美術部長で2年の井上結加里さん（16）は「支えてくれる市民病院や地域の人たちにエールを送りたい」と思い描きました。昨年は団画が制作できなかったけど今年先輩や先生の力を借りて作れてうれしいです」と笑顔。書道部長で2年の浦田萌未さん（17）は「昨

年はコロナでいろんなことが中止になりましたが、ネバーギブアップの気持ちで負けずに頑張ろうと、医療従事者や地域の方々への感謝を込めて書きました」と作品への思いを話した。

あらおシティモールでは8月末まで展示される予定。

（矢野 大輔）